

令和7年第5回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序

- 1 創世会 (10番 安田 彰 議員)
- 2 市民のこえ (19番 窪野 愛子 議員)
- 3 共に創る掛川 (14番 富田 まゆみ 議員)

令和7年第5回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序（予定）

11/21(金) AM

創世会 (10番 安田 彰 議員)

市民のこえ (19番 塩野 愛子 議員)

11/21(金) PM

共に創る掛川 (14番 富田 まゆみ 議員)

代表質問通告要旨

【会派名：創世会】

議席番号	10	氏名	安 田 彰	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	-------	-----------------

1 市長2期目の手応えと課題について

(答弁：市長)

4月の市長選挙で当選を果たし、久保田市政の2期目が始まり、半年が経過した。6月定例会で久保田市長は、これから市政運営に向けての基本姿勢と所信を述べられた。また、令和7年は市制20周年の節目の年であり、第3次掛川市総合計画策定の年でもある。多くの記念事業や台風15号による被災など、様々な出来事のあった半年であったが、この半年を振り返り、市政の手応えとこれからの課題について、市長の考えを伺う。

- (1) 基本姿勢として対話とチャレンジを重視している。直接対話の中で、市長は市民に何を伝えたか。また、市民が久保田市政に何を求めていると感じたか伺う
- (2) 持続可能なまちであり続ける上で、市民の連帯感や所属感が大切だと考えるが、社会全体としてこれらの意識が希薄になってきていると感じる。この点について、市民にどう働きかけるか、見解を伺う
- (3) 増加する空き家に対して、利活用促進を重点としているが、現状及び今後の方向性について伺う
- (4) 誰もが楽しめる賑わいの場の創出を挙げているが、今後のまちづくりの方向性について、見解を伺う
- (5) ごみ排出量の少ない本市において、市長は世界一のごみ減量都市を目指すと言っているが、そのための方策について伺う
- (6) 大型プロジェクトが控える中、掛川市財政は厳しい状況にある。持続可能なまちであり続けるための令和8年度予算の方向性について、見解を伺う
- (7) 現在策定中の「第3次掛川市総合計画」についてその基本的な方向性及び、市長として最も大切にしたいポイントを伺う

2 掛川市の活性化に向けた取組について

(答弁：市長、教育長)

物価高の中、少子高齢化が進むことで、将来の年金支給や健康保険料負担に対する不安を感じる市民が増えている。そのような中で、掛川市民が希望をもって、前向きに生活していくためには、国や県はもちろんのこと、掛川市民に寄り添った政策が必要であることは言うまでもない。そこで、掛川市の活性化に向けた取組について伺う。

- (1) 30年間に及ぶ学校再編計画がスタートしたが、少子化が進む中、再編後に適正規模を維持できるのか不安がある。今後、場合によっては再編計画の見直しが必要になると考えるが、見解を伺う
- (2) 学びの多様化学校の設置に向けて、この学校再編を契機として取り組むときだと考えるが、見解を伺う
- (3) 全市生涯学習学びのキャンパス化の手段として、掛川100景の積極的活用が期待される。今後の市民への働きかけについて伺う
- (4) 中東遠地区は、県内でも医師の少ない地区で、特に市南部地域の開業医が減っている。南部地域の医療を維持するための打開策について伺う
- (5) 掛川市が発注する高額な工事においては、入札により大手ゼネコンが事業者となることが多い。市内事業者を優先的に下請けとして依頼することで、本市の経済状況が向上すると考えるが、市長の見解を伺う

3 信頼される学校に向けて

(答弁:教育長)

中学校部活動の地域クラブへの移行や小学校低学年の通知表廃止等、掛川市は様々な取組を進めている。これらの取組が着実に進行するためには、地域が学校を支えると共に、地域から信頼される学校、教職員でなければならないと考える。そこで以下について伺う。

- (1) 学校と地域が連携・協働して学校運営に取り組むための機関として学校運営協議会があるが、成果と課題について現状を伺う
- (2) 教職員が心身共に健康な状態で勤務することが、子供の学びの充実には欠かせない。教職員がストレスを溜めることなく勤務できる環境作りが大切だと考えるが、教育委員会としての取組について伺う
- (3) 学校は、児童生徒が安全に、安心して生活できる場所でなければならない。そこで、校内における児童生徒の安全を守るために、教職員にはどのような働きかけをしているか伺う
- (4) 中学校の部活動は、令和8年9月に地域クラブに移行する。中学生が安心してクラブ活動に参加するためには、様々な配慮が必要だと考える。教育委員会として、地域クラブへどのように関与していくか見解を伺う
- (5) 地域クラブに指導者として参加する教職員への支援策について伺う

代表質問通告要旨

【会派名：市民のこえ】

議席番号	19	氏名	窪 野 愛 子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 第3次掛川市総合計画策定を踏まえた、令和8年度の施策展開について (答弁：市長、教育長)

第2次掛川市総合計画はSDGs推進などの視点を加え、全ての人に優しいサステナブル（持続可能）なまちづくりに取り組むため、令和2年度に改定されたものの、コロナ禍の社会情勢や人々の行動変容により再度改定され、現況では【ポストコロナ編】として運用されている。今般、第3次掛川市総合計画の策定が進められているが、今後、大型事業等を控え財源不足が懸念される中、現状の財政状況や令和8年度の予算編成に基づく財政見通し及び財源確保について、どのような方策を持ってこの難局を乗り越えていくのか見解を伺う。

- (1) 第2次掛川市総合計画は、計画策定の趣旨に基づいた成果について、どのように評価しているのか伺う
- (2) 第3次掛川市総合計画では、Well-beingの指標を設定するとのことだが、市民が生活の豊かさや幸福感を実感できるよう、今後優先すべき施策について伺う
- (3) 児童生徒が、身体的、精神的、社会的にも満たされるWell-beingの状態になるために、教育現場で必要と考える取組について伺う
- (4) 令和8年度の当初予算編成に向けて、各課に対し厳しい視点での事業見直しと経費削減を求めていると聞いています。今後、市民サービスへの影響も懸念される中、財政状況を市民に丁寧に説明し、理解と協力を得る必要があると考えるが、見解を伺う

2 地震、津波、風水害をはじめ、地球温暖化の影響による自然災害から市民の生命、財産を守るための取組について (答弁：市長、教育長)

1944年に発生した昭和東南海地震及び1946年に発生した昭和南海地震から約80年が経過し、次なる南海トラフ地震の発生が現実味を帯びてきている昨今、地球温暖化の影響による風水害が毎年のように発生し、甚大な被害をもたらしている。加えて、猛暑による熱中症のリスクも高まり、市民の日常生活の安全、安心が常に脅かされている状況である。こうした自然災害から市民の命と暮らしを守るために、現状の防災力、減災力をさらに強化していく必要があると考える。そこで、今後の取組において、どのような点を重点的に強化すべきと認識しているのか、以下について伺う。

- (1) 南海トラフ地震への備えと地域防災力の強化については、掛川市地域防災計画・地震対策編に基づき進められているが、南海トラフ地震への備えについて、現時点での進捗状況と、今後の課題認識について伺う
- (2) 地域の自主防災組織の活動強化や、防災訓練の実効性を高めることが重要と考えるが、今後、市としてどのような支援体制や関与の在り方を想定しているのか、見解を伺う
- (3) 近年の風水害は短時間に多量の雨が降ることが大きな特徴となっているが、短時間の大雨で一気に高まる災害リスクに対して、どのような対策を講じているのか、さらに、今後の備えについても伺う
- (4) 地域のあらゆる避難所において、気候変動がもたらす猛暑対策や、災害弱者など多様性に配慮した避難所となるための環境整備に取り組んでいるのか伺う
- (5) 児童生徒の生命、身体を守るため、教育現場における自然災害への備えの現状と課題を踏まえ、災害時における学校の役割を明確にするとともに、新たな知見や技術を踏まえた、災害対応マニュアルの整備が急務と考えるが、教育委員会の見解を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：共に創る掛川】

議席番号	14	氏名	富田まゆみ	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	-------	-----------------

1 第3次掛川市総合計画を踏まえた市のこれからの方針について

(答弁：市長)

第3次掛川市総合計画策定においては、新たな将来像（案）を『だれもが自分らしく暮らせる 持続可能なモデル都市 カルガワ』としている。新たなビジョンを描き、持続可能で明るい将来に向かおうとしていることから、今後の方針について伺う。

- (1) 第3次掛川市総合計画は、あらゆる場面でD E IとD Xをベースとしているが、そこに込めた思いと市民への受容感を含めた今後の方針を伺う
- (2) 令和7年度の市民意識調査では、住みやすさに関する問い合わせにおいて大きな地域差が出ている。誰もが幸福感を持ちながら暮らし続けられると感ずることは市政運営においても重要であり、地域による意識の差を是正することは必須課題と考えるが、見解を伺う
- (3) 地区まちづくり協議会設立から10年の節目を迎え、今後の地区まちづくり協議会の在り方について、協働によるまちづくり推進条例の見直しも含め伺う
- (4) ここ数年、府内の危機管理意識の醸成や市全体の防災力の向上を実感しているが、これまでの防災対策への成果と今後の課題について伺う
- (5) 令和7年度の市制20周年記念事業を含む毎年実施しているイベントについて、一過性のものに終わらせず、これまで以上に費用対効果を検証し、必要な事業を取捨選択することで、21年目以降の市政につなげるべきと考えるが、見解を伺う

2 掛川市学校再編計画の再考について

(答弁：市長、教育長)

令和6年度決算は、実質単年度収支が赤字決算となるなど厳しい財政状況であり、令和7年度も同様の状況である。今後予定されている学校再編、新廃棄物処理施設建設などの大型事業により、さらに大きな財政負担が予想される。令和8年度予算における一般財源配分では、各担当課に対し前年度比20%減の通達が出されていることから、道路や河川整備など、これまで以上に地区からの要望に応えられなくなる可能性があり、市民生活への影響も心配される。

こうしたことから、各種事業の実施方法の検討はもとより、財政面においても中長期的な視点に立った事業の在り方を考える必要がある。学校再編について、今一度、抜本的な見直しも視野に入れた検討が必要と考え、以下を伺う。

- (1) 令和7年度に実施した原谷小学校、原野谷中学校の校舎の耐力度調査結果について伺う
- (2) 耐力度調査の結果から、今後の原野谷学園小中一体校整備にかかる総事業費見込みと財源内訳、財源計画を伺う
- (3) 現時点での出生数から、小中一体校の開校から数年後には1クラス編成になる中学校が見込まれ、さらなる再編の必要性が発生する。学校再編の検討が始まった経緯からすると逆行していると言えるが、見解を伺う
- (4) 原野谷学園では、少子化により適正規模を維持することが困難なことから、少人数でも行えるイエナプランにより学校運営することだが、市内の各学校で教育手法が異なる状況について、見解を伺う
- (5) 市全体の人口減少、学園ごとの児童生徒の在籍予測、市の財政状況を市民に周知、共有してもらった上で、総合的に学校再編を見直す必要があると考えるが、見解を伺う